

新潟民商

新潟民主商工会
新潟市沼垂西3丁目
電話 (243) 0141
21 年 10 月 11日

力合わせて支援金の不備ルーフを突破！ 仲間の支えで乗り越える一駅前支部

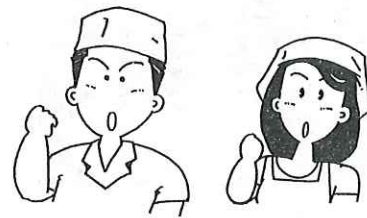
新潟駅前でスナックを営むAさんは「国の一時支援金申請がオンラインのみのために、とても1人では出来ない」と知人である駅前支部の小池支部長に相談。支部で開催している相談会で申請に挑戦しました。相談会では役員の協力で無事に申請することが出来ました。

後日、最初の不備メールが届きました。内容は「新潟県は支援金の対象地域ではないのではないですか？」です。該当する証明書類を送り数日すると今度は「申請区分が違う」と再度メール。それも修正し申請すると今度は「店の写真を送れ」「売上の確認出来る通帳の提出」などのメールが何度も送り返されて来ます。中には全く理解が出来ない内容のメールもありました。

その後、同じ境遇である人達が集まり日本共産党の藤野衆議院議員と中企庁職員を交えた懇談会をオンラインで開催（既報）。その結果、申請期限の1ヶ月延長を勝ち取りました。

その1カ月間もあらゆる内容の不備メールが届きました。Aさんは「40年も営業しているのに店の存在を否定されているみたい」と、何度もくじけそうになりましたが、支部長の小池さんや支部の仲間に励まされながら奮闘。諦めずに不備を解消する努力を続け、2019年・2020年の準備できる書類を全て集めて再申請をしました。

しばらくは審査中が続き、申請期限2日前に画面が振込手続中に。Aさんは「1人だったら早々に諦めていた。民商の仲間に支えられ頑張った良かった。申請も大変、コールセンターは電話しても全く繋がらない。本当に必要な人へ届かない支援のやり方は許せない」と語っています。



仲間に民商を知らせることは人助け、商工新聞を全面に紹介運動を広げよう

全商連70周年を組織の高揚の中で迎えよう
新潟民商が加盟している全国商工団体連合会（全商連）は、今年70周年を迎えます。11月には70周年を記念したレセプションが開催されます。

各地の民主商工会は、戦後の強権的な税金の徴収などに苦しめられる中小業者が団結するために税金是正会を組織したことが始まりです。これが「税金の民商」と言われる所以となっています。80年代には中曽根首相が導入を狙った、現在の消費税にあたる大型間接税への反対運動をすすめ、代々木公園に全国から17万人を集める集会を開き、列島騒然と言われる大運動へと発展させました。

新型コロナウイルス感染症禍で中小業者はかつてない困難を強いられています。国や県・市などの支援金も当面は計画が無く、「自助努力」しると言わなければならない対応です。

こんな時だから「集まって話し合い、相談し合い行動する」民商の出番です。みんなで知恵を寄せ合い、この困難を乗り越えるために力を合わせると同時に、足りないものは遠慮なく国・県・市に要望しましょう。そのヒントは全国の英知が集まっている商工新聞に詰まっています。

あなたの知り合いに「民商へ相談してみたら？」と声を掛けることは人助けと同じ意味を持ちます。商工新聞の記事で民商の活動内容も知らせながら、一声を掛ける運動に全会員が参加しましょう！



商工新聞3名紹介
会員1名紹介
署名50筆

いづれかで
粗品進呈!

日程

- ・ 拡大推進委員会 10月12日
- ・ 共済会三役会 10月12日
- ・ 拡大統一行動日 10月24日 民商会館集合

政権交代で消費税率を引き下げさせよう 新潟県消費税率廃止各界連が宣伝署名行動

消費税が10%に増税されて丸2年。消費税率廃止各界連は本町十字路にて、消費税率引き下げ・インボイス廃止の署名宣伝行動に取り組みました。約20名が行動に参加し、新潟県民からは7名が参加しました。



参加した各団体の代表がマイクを持ち、それぞれの立場から消費税の引き下げとインボイス制度廃止について訴えました。

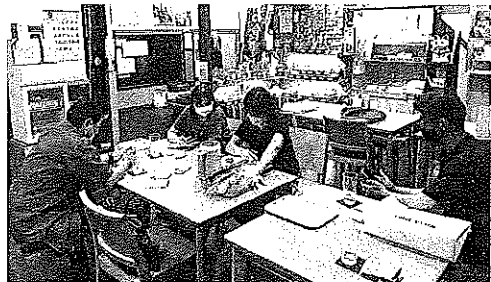
買物途中の女性や昼休みで街を歩くサラリーマンに署名用紙と返信用の封筒が入ったポケットティッシュを配り、署名を集めて返送して欲しいとの声掛けを行いました。

多くの会員にインボイスを知らせよう 班で細かく学習会を開催―亀田支部―

亀田支部では9月に開かれた役員会でインボイスについて討議。支部役員の中でもインボイスに対する認識が合わなかったことから「会員はもっと知らない。より多くの会員に知らせよう」と班会を計画。その中でセミナーをすすめることを確認しました。

9月30日に「えんではよこし」にて開かれた5班（旧横越地域）の班会には3名が参加。最初は消費税の仕組みと申告の仕方などを中心に議論。続けて制度実施で中小業者にとってどんな不利益があるのかなどを学び合いました。

一通り話を聞いた参加者からは「負担率が大きい小さな事業者をいじめる制度だ」「制度を廃止にするために諦めず、選挙で制度廃止を掲げている人たちを伸ばそう」などの意見が出し合われました。5班は引き続き10月も班会を開催し話し合っていく予定です。



支部では、10月1日には3班（亀田西地域）でも班会を開催しインボイスについて討議しています。支部役員会では全会員にインボイス制度を知ってもらうためにも全会員訪問で声を掛けつつ、班会を会員全員が参加するまで開催していこうと話合っています。

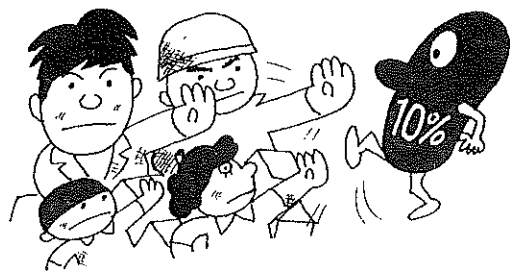
学習会への参加呼び掛け「インボイスって何？」 制度の危険性を知らせながら会員訪問―松浜支部―

松浜支部では9月29日、消費税・インボイス学習会への参加呼びかけと仲間増やしの訴えを兼ねて会員訪問を行いました。

訪問先では、中村支部長が10月からインボイスの番号申請が開始される事を話すと「チラシを見て、聞きたいと思っていた」「気になっていたので学習会に出る」と既に配布されていたチラシで参加を決めていた人が多数。一方で「インボイスって何なの?」と初めて耳にしたという人もいます。

しかし制度内容を簡単に説明すると「学習会で勉強しなければならぬ」「大変な制度。自分でも調べてみる」など制度の危険性を感じる人がほとんどでした。中村勉支部長は「番号申請は開始されるが、慌てて番号をもらう必要はない」と経過措置があるため申請を急がないように注意を促しました。

税率が一律になり、複数税率でなくなればインボイス制度は廃止できる可能性が強まることを話すと「今年の選挙は大事だね」と選挙への関心も深まりました。



経営対策部・青年部共催 ビジネススキルアップセミナー 小規模事業者持続化補助金に向けた 第2回 事業計画書作成会

10月18日(月) 19:00~20:30

会場：えんではよこし
(江南区横越川根町3丁目1-48)

今回のビジネススキルアップセミナーは、前回と同様に「小規模事業者持続化補助金」の申請に必要な「事業計画書」を参加者同士で意見交流を行ないながら作成します。自身の事業計画を第三者から意見をもろうことで新たな発見があるかもしれません。

講師
山本 美幸さん
(ミジンの友愛)
「持続化補助金の獲得経験があり、作成のポイントなどを教えてくださいます」